

# メキシコ南部地域の低開発と貧困

福山大学子経済学部国際経済学科

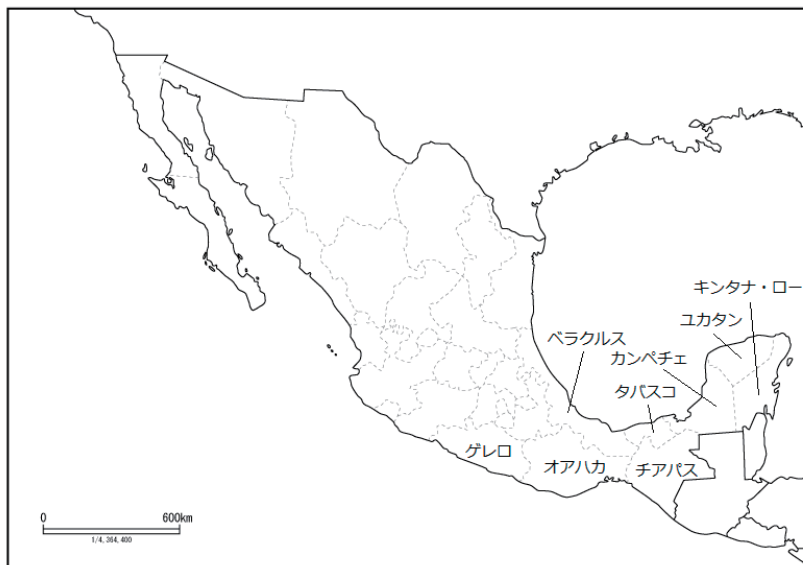
鍋島正次郎

キーワード： 南部地域、低開発、地域間格差、人口転換

## 1. はじめに

メキシコは、アメリカ合衆国に隣接し、近年工業化の進展が著しい北部地域、首都であるメキシコシティを中心に、古くから商工業が集積した中部地域、そして、先住民人口比率が高く、経済発展の遅れた南部地域に分類される。ここで、南部とは、ベラクルス州、タバスコ州、カンパチェ州、ユカタン州、キンタナ・ロー州、ゲレロ州、オアハカ州、チアパス州からなる地域とする（図1）。本稿では、主に「人口・住宅センサス 2020（Censo de Población y Vivienda 2020）」と「世帯収支全国調査 2020（Encuesta Nacional de Ingresos y Gastos de los Hogares 2020）」に基づき、メキシコ南部諸州（なかでも、チアパス州を多く取り上げる）の社会＝経済的特徴を概観し、今後の経済発展の可能性について考察したい。

図1. メキシコ南部地域



## 2. メキシコ南部地域の社会＝経済的特徴

「人口・住宅センサス 2020」によると、メキシコ南部諸州の人口は合計 28,789,084 人で、総人口 126,014,024 人の 22.85%に当たる。

まず、GDP への各州の貢献から、地域ごとの経済状況を見て行きたい。ここでは、国家統計地理情報局 (INEGI) のデータに基づいて 2020 年の各州の粗付加価値 (2013 年基準) を見ると、表 1 のように、南部ではベラクルス州が第 5 位に入り、下位 5 州の中に南部諸州は入っておらず、南部のその他の州も GDP に中程度の貢献をしていることになる。

しかし、一人当たり粗付加価値で見ると、油田群を有する南部のカンペチェ州が圧倒的に多くなっており<sup>1</sup>、タバスコ州も第 4 位だが、その他の南部諸州はいずれも下位に位置しており、中でもゲレロ州、オアハカ州、チアパス州は最下位 3 州である (表 2)。また、前稿でも述べたように、州ごとの平均世帯収入に関しては、最上位のヌエボ・レオン州 (北部) の世帯の平均収入 (四半期) は 72,931 ペソだが、最下位のチアパス州 (南部) のそれは 29,168 ペソと半分以下であることがわかる。また、世帯の平均収入が高い州は北部に集中しており、低い州は南部に集中している (表 3)<sup>2</sup>。

表1. 各州の粗付加価値

順位	州	(百万ペソ)	地域	順位	州	(百万ペソ)	地域
1	メキシコシティ	2,856,751	中部	∴	∴	∴	∴
2	メキシコ	1,484,569	中部	28	サカテカス州	145,330	中部
3	ヌエボ・レオン	1,267,121	北部	29	バハ・カリフォルニア・スル	121,986	北部
4	ハリスコ	1,125,699	中部	30	ナヤリット	107,125	中部
5	ベラクルス	737,613	南部	31	コリマ	101,248	中部
∴	∴	∴	∴	32	トラスカラ	90,941	中部

出典: INEGI. Sistema de Cuentas Nacionales de México

表2. 各州の一人当たり粗付加価値

順位	州	(ペソ)	地域	順位	州	(ペソ)	地域
1	カンペチェ	519,188	南部	∴	∴	∴	∴
2	メキシコシティ	310,181	中部	28	イダルゴ	78,982	中部
3	ヌエボ・レオン	219,057	北部	29	トラスカラ	67,716	中部
4	タバスコ	193,317	南部	30	ゲレロ	61,892	南部
5	ソノラ	187,206	北部	31	オアハカ	57,398	南部
∴	∴	∴	∴	32	チアパス	45,881	南部

出典: INEGI. Sistema de Cuentas Nacionales de México  
Censo de Población y Vivienda 2020

1 国際協力銀行 (2021) p.125.

2 鍋島正次郎 (2022) pp.74-75.

表3. 四半期の平均世帯所得

順位	州	(ペソ)	地域	順位	州	(ペソ)	地域
1	ヌエボ・レオン	72,931	北部	∴	∴	∴	∴
2	バハ・カリフォルニア	67,821	北部	28	トラスカラ	37,919	中部
3	メキシコシティ	67,357	中部	29	オアハカ	36,263	南部
4	バハ・カリフォルニア・スル	64,266	北部	30	ベラクルス	35,126	南部
5	ソノラ	61,358	北部	31	ゲレロ	32,516	南部
∴	∴	∴	∴	32	チアパス	29,168	南部

出典: Encuesta Nacional de Ingresos y Gastos de los Hogares 2020

南部地域のこのような低い一人当たり粗付加価値と世帯収入は、この地域の開発の遅れと生産性の低さのためであり、そのような現状の原因の一つは、国内外からの直接投資の少なさであろう。例えば、2018年のメキシコ全体への外国直接投資額は340億7,870万ドルだったが、メキシコシティ（中部）が82億6,760万ドルと全体の24.3%を占め、次いで、ヌエボ・レオン州（北部）が32億5,900万ドル（全体の9.6%）、メキシコ州（中部）が29億2,250万ドル（同8.6%）となっている。それに対して、南部諸州では、最も多いベラクルス州でも10億8,960万ドル（同3.2%）で、最低のオアハカ州は5,740万ドル（同0.2%）にすぎない<sup>3</sup>。

最後に、本稿では詳しくは扱えないが、先住民比率と経済との関わりについて簡単に見ておく。南部はとりわけ先住民人口の比率が高い地域として知られている。「人口・住宅センサス2020」によると、3歳以上の住民全体に占める民族語話者の比率は、全国平均では5.35%だが、南部諸州ではその比率が高く、特にオアハカ州27.60%、ユカタン州22.46%、チアパス州20.00%、ゲレロ州11.89%である。それに対して、中部や北部では民族語話者数の比率が低くなっており、1%を下回る州も多数ある（表4）。なお、「人口・住宅センサス2020」では、先住民の非識字率の高さが示されており、全国の15歳以上人口の非識字率は4.74%だが、民族語話者に限れば20.87%に達する。そして、このことは、先住民の就学機会や就職機会に制約を与え、その人口が多い地域の平均所得を引き下げると考えられる。また、外資は、南部地域が首都圏や北部国境地帯からあまりにも遠方であるという理由以外にも、優秀な労働力を求めているという理由から、そのような地域への直接投資を避けるかもしれない。

表4. 民族語話者の比率(%)

順位	州	比率	地域	順位	州	比率	地域
1	オアハカ	27.60	南部	∴	∴	∴	∴
2	ユカタン	22.46	南部	28	タマウリパス	0.66	北部
3	チアパス	20.00	南部	29	サカテカス	0.31	中部
4	ゲレロ	11.89	南部	30	グアナフアト	0.22	中部
5	イダルゴ	11.26	中部	31	アグアスカリエンテス	0.18	中部
∴	∴	∴	∴	32	コアウイラ	0.18	北部

出典: Censo de Población y Vivienda 2020

以下では、節を改めて、南部チアパス州の年齢階層別人口構成を全国や北部ヌエボ・レオ

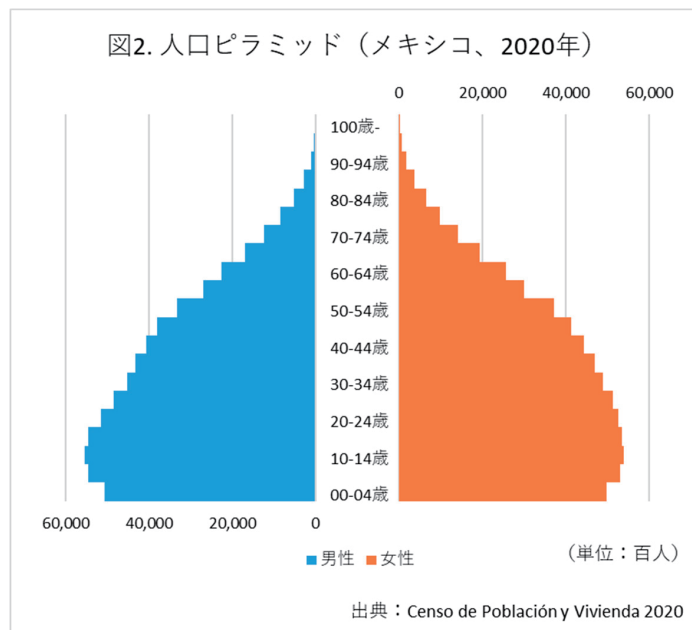
3 国際協力銀行（2021）p.127.

ン州のそれと比較して、チアパス州の人口動態の現状が、いまだ経済発展にとって好都合な段階に達してはいないことを確認したい。

### 3. メキシコ南部地域の人口動態

メキシコ南部諸州の中でも、平均所得が全国最低のチアパス州の人口動態に注目し、それがこの地域の低開発といかに結び付いているかを考えたい。

その前に、まず、「人口・住宅センサス 2020」をもとにメキシコ全体の人口ピラミッドを描くと図2のようになる。10歳未満の人口が急減し、10-14歳の年齢階層が最も多く、その部分が膨らみとなっている一方で、65歳以上の老年人口は相対的にいまだ多くはない。このまま出生率の低下が進めば、15-64歳の生産年齢人口の層に膨らみがせり上がって行き、全人口に占める生産年齢人口の比率が高い状態（人口ボーナス）がしばらくの間続くだろう。そのため、現在のメキシコは、人口転換のプロセスにおいて、死亡率の低下に遅れて出生率の低下が始まって10年ほど経った段階である<sup>4</sup>。



一般的に所得水準が上昇すると、子供の労働力やその所得へのアクセス、子供による老後の介護への期待などの、子供を持つことの効用が低下し、逆に、教育費など子供にかかる諸費用の増大や、両親の就業・所得機会に対する機会費用の増加など、子供を持つことの不効

4 河野稠果（2007）pp.112-113；鍋島正次郎（2020）p.23.

用が上昇するため、社会の出生率は低下する。日本を除くアジアの国や地域の多くで、その粗出生率は、1980年代以降の経済成長期に急速に低下した<sup>5</sup>。また、「世界人口推計 2022 (World Population Prospects 2022)」によると、1970年と2000年の合計特殊出生率 (TFR) を比べると、中国は6.09から1.63へ、台湾は3.95から1.46へ、韓国は4.41から1.42へ、シンガポールは3.07から1.56へ、タイは5.55から1.61へといずれも急落している。なお、日本では、1970年には特殊出生率は2.09と置換水準 (この数値が維持されれば、人口は増えも減りもしない均衡状態になる水準) 近くにまで達しており、2000年には1.37まで低下していた。

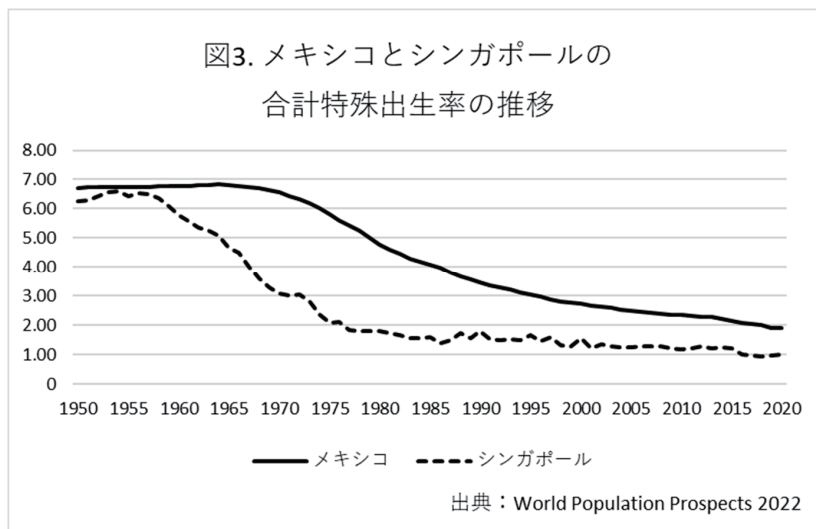
それに対して、メキシコでは TFR の下降が緩やかで、次の図 3 のように、シンガポール (東南アジア) では、1954年に6.59と TFR が最高となり、それ以降は急速に下降し始め、1977年に初めて2を下回る (1.83) までに23年しか掛かっていないのに対して、メキシコでは、最高値 (6.82) を記した1964年から54年を経て、2018年によりやく2.00まで下落している。このような TFR (や粗出生率) の下落スピードの遅さが、近代医療の普及に伴う死亡率の急落と相まって、人口ボーナス期の特徴の一つである生産年齢人口が従属人口の2倍を超える期間<sup>6</sup>が訪れるのが、メキシコでは遅く、かつ、その期間は短くなっている。例えば、シンガポールでは、1979年に初めて生産年齢人口が従属人口の2倍を超え、中位推計ではその状況が2029年まで51年間続くと予想されているのに対して、メキシコでは、2020年によりやく2倍に達したが、この状況は2040年までの21年間しか続かないと予想されている。

しかし、先の2020年の人口ピラミッドに見られるように、現在、メキシコでも、連邦政府や州政府による適切な産業政策、労働政策、金融政策などが採られさえすれば、人口ボーナス効果を楽しむ時期がようやく訪れたことが分かる。

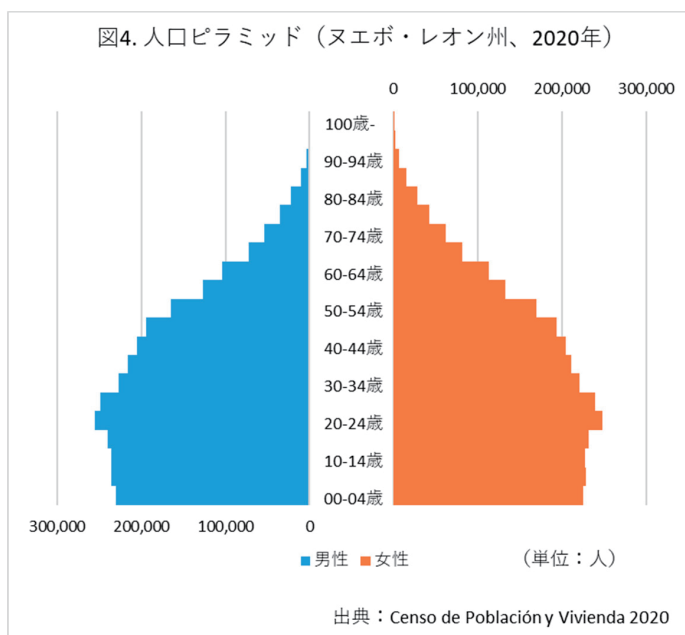
---

5 大泉啓一郎 (2007) pp.23-28 ; 鍋島正次郎 (2020) p.23.

6 椎野幸平 (2015) pp.58-59.

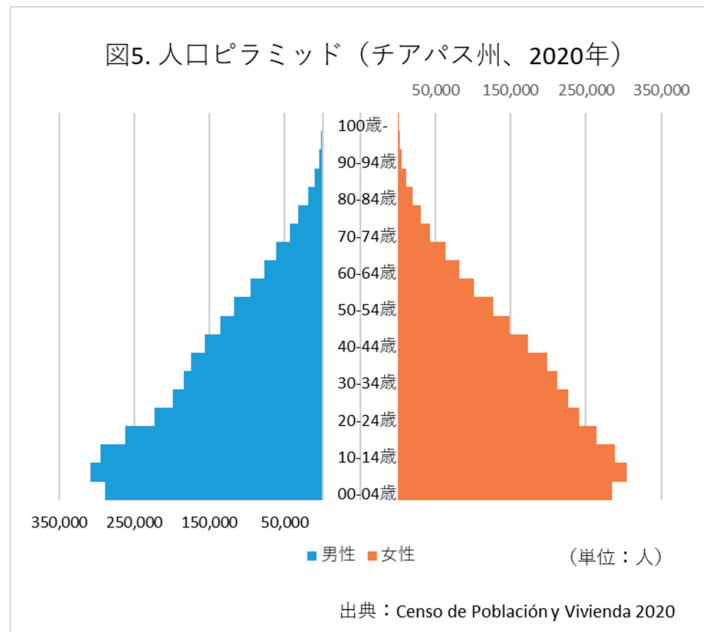


しかし、州ごとに見ると、先述のように、もっとも平均所得の高いメキシコ北部のヌエボ・レオン州では、「人口・住宅センサス 2020」によると、図4の人口ピラミッドに見られるように、もっとも人口が多いのは20-24歳の年齢階層で、生産年齢人口の部分が全国平均よりも大きく膨らみ、従属人口の2.17倍に及んでおり、全国平均よりもさらに人口転換のプロセスが進んでいることが分かる。このような人口学的な好条件が、豊富な外国直接投資などを通じての北部の工業発展の進展と相まって、いままさに世帯所得や一人当たり粗付加価値の上昇をもたらしていると思われる。



それに対して、メキシコ南部のチアパス州に目を向けると、「人口・住宅センサス 2020」に基づく人口ピラミッド (図5) では、0-4歳の人口が5-9歳の人口より減っている。しかし

ながら、5歳以上の人口に関しては、途中で膨らみを持たない美しいピラミッド型を形作っている。そのため、チアパス州では、つい最近になってやっと出生率の低下が始まったばかりであり、全国レベルや北部諸州におけるような、人口転換のプロセスが進み、経済成長の追い風ともなる最適な（生産年齢人口が従属人口の2倍超となる）年齢階層構造に到達するまでには、まだしばらく時間がかかるように思われる。実際、2020年時点ではまだ、生産年齢人口は従属人口の1.60倍に過ぎない。このことは、一人当たりの平均可処分所得が十分大きなものとなっていないことを意味しており、それに加えて、外国直接投資の少なさもあって経済発展が遅れているため、貧困状態を解消するのを難しくしていると思われる。



チアパス州の上記のような年齢別人口構成の下では、社会は消費人口一人当たりの十分な労働人口が確保できず、一人当たりの可処分所得を押し下げる。このことは、世帯が子供に対する十分な教育費を支出できず、生産性の高い労働力を増加させることを困難にしている。実際、「人口・住宅センサス 2020」によれば、メキシコシティ（中部）やヌエボ・レオン州（北部）では3歳以上の人口に占める就学期間が0年のものの割合はそれぞれ3.09%と3.97%なのに対して、南部のチアパス州やゲレロ州ではそれぞれ13.50%と11.19%に達している。また、学位取得の有無にかかわらず、大学に在籍したことのある者は、メキシコシティ（中部）とシナロア州（北部）でそれぞれ23.32%と18.85%であるのに対して、南部のチアパス州とオアハカ州ではそれぞれ8.38%と9.42%にすぎない。そして、南部諸州では、就学期の年少者が就労していることも多い。12-14歳の労働参加率は、メキシコシティ（中部）で5.43%、ヌエボ・レオン州（北部）で5.50%なのに対して、南部のチアパス州やゲレロ州ではそれぞれ24.09%と20.91%となっている。このような状況を反映して、南部諸州では他の地域に比

べて15歳以上の非識字率が高い(表5)。

表5. 15歳以上の非識字率

順位	州	(%)	地域	順位	州	(%)	地域
1	チアパス	13.69	南部	∴	∴	∴	∴
2	ゲレロ	12.46	南部	28	ソノラ	1.99	北部
3	オアハカ	11.81	南部	29	バハ・カリフォルニア	1.82	北部
4	ベラクルス	8.49	南部	30	バハ・カリフォルニア・アスル	1.67	北部
5	ミチョアカン	7.03	中部	31	ヌエボ・レオン	1.46	北部
∴	∴	∴	∴	32	メキシコシティ	1.42	中部

出典：Censo de Población y Vivienda 2020

#### 4. メキシコ南部地域の世帯収支と貧困

南部地域の多くの州では、上述のように、そもそも世帯所得が低いうえに、現金所得に占める勤労所得の割合が低く、親族による送金や Progres/Oportunidades (政府の就学支援プログラム) などの公的補助金などの移転所得の割合が高くなっている。例えば、「世帯収支全国調査 2020」によると、バハ・カリフォルニア州 (北部)、グアナフアト州 (中部) やコアウイラ州 (北部) では、勤労所得の割合がそれぞれ 74.45%、70.27%、69.94%に達するのに対して、南部のゲレロ州、オアハカ州やチアパス州では 51.72%、51.87%、55.86%にすぎない (なお、最低は中部のナヤリット州 51.56%である)。他方、移転所得の割合は、バハ・カリフォルニア州 (北部)、メキシコ州 (中部)、チワワ州 (北部) が 13.87%、14.04%、14.27%であるのに対して、南部のゲレロ州、ベラクルス州、チアパス州ではそれぞれ 25.72%、21.38%、21.09%となっている (中部のナヤリット州は 22.26%とゲレロ州に次いで高い割合である)。

世帯支出の面では、現金支出に占める飲食費の割合は、南部では 40%を超える州が多く、北部では 30%台前半の州が多いという著しい対照を示している (表6)。そして、南部では教育費などの支出割合は相対的に低くなり、むしろ児童の就労の比率を押し上げ、このことも、南部諸州が貧困から脱出するのを難しくしているといえる。

表5. 世帯の現金支出に占める飲食費の割合

順位	州	(%)	地域	順位	州	(%)	地域
1	ゲレロ州	43.39	南部	∴	∴	∴	∴
2	オアハカ州	43.01	南部	28	シナロア州	33.67	北部
3	タバスコ州	42.40	南部	29	ソノラ州	33.30	北部
4	ユカタン州	41.92	南部	30	ヌエボ・レオン州	32.32	北部
5	チアパス州	41.48	南部	31	バハ・カリフォルニア州	32.26	北部
∴	∴	∴	∴	32	コアウイラ州	31.92	北部

出典：Encuesta Nacional de Ingresos y Gastos de los Hogares 2020



## 5. メキシコ南部地域の開発に必要なもの

上述のように、現在のメキシコ南部地域は、低開発とそれに伴う貧困によって特徴づけられる。このような状態から脱するためには、何が必要だろうか？

この地域の低開発と貧困の原因は、開発の進んだ北部国境地帯やメキシコシティを中心とする中部地域からの距離的な遠さ、いわゆる周縁性（*marginality*）に起因する国内外からの投資の乏しさや、おそらくは伝統的な社会慣習の根強さによる人口転換（*demographic transition*）の遅れからくる生産年齢人口比率の増加スピードの遅さ、そして、そのこととも関係するが、子女が十分な教育を受けられないことによる優秀な人材の不足などがあげられる。また、本稿では検討できなかったが、南部地域における先住民比率の高さが、社会的排除等の住民たちにとって不利益な社会・経済的な待遇をもたらしているかもしれない。

こうした中で、この地域の開発を進展させ、貧困状態を緩和するためには、初等・中等教育の質的な改善と量的な拡大による優秀な人材育成と、生産年齢人口比率の増大による一人当たりの可処分所得の上昇のみならず、国内外からの投資の拡大を通じての産業育成が不可欠だろう。生産年齢人口比率の上昇に関しては、前述のように、現在その兆しが見え始めているが、残りの2点については、地域の努力だけでは進展は難しく、連邦政府の関与が不可欠だろう。初等・中等教育の普及・改善に関しては、前稿でも述べた *Progres/Oportunidades* のような教育支援のための CCT プログラムが実施されており、その不十分さに対する多くの指摘はあるものの、高校生までを給付対象としたり、もともと男子に比べて就学率の低かった女子に対しては支援金を増額するなど、他の中南米諸国における同様な CCT 政策と比べると一歩踏み込んだものとなっている<sup>7</sup>。

先にメキシコ南部の周縁性について触れたが、これは国内に限ったはなしであり、この地域は、メキシコにとって、他の中南米諸国への窓口という地理的位置に立っている。実際、メキシコ政府は、南部地域から中米地峡を縦貫するハイウェイ、送電網、光ファイバー網などに関するインフラ協力を中米各国政府と行ってきた<sup>8</sup>。また、2018年12月にメキシコ大統領に就任したロペス・オブラドールは、アメリカ政府との間で、「メキシコ南部及び中米を繁栄させることを目的とし、同地域における経済開発及び投資を増大させるため二国間協力を強化・拡大する」という基本方針に合意した<sup>9</sup>。このような合意の背景には、中米からメキシコを通過して入ってくる移民の増大に苦慮するアメリカの思惑があるものと思われる。いず

<sup>7</sup> 鍋島正次郎（2022）pp.78-81.

<sup>8</sup> 宇佐見耕一他（2009）p.95.

<sup>9</sup> 在メキシコ日本大使館 HP 「メキシコ政治情勢」（2018年12月）pp.9-10.

れにせよ、これらの取り組みが、実際にこの地域に民間投資を呼び込むきっかけになるかどうかは、2020 年前半以来の新型コロナウイルスのパンデミックなどもあり、その結果が明らかになるのは、しばらく先のことになるだろう。

## 6. まとめ

メキシコ南部地域は、首都メキシコシティや北部国境地域から遠く離れており、国内外からの直接投資も乏しく、低開発の状態が続いてきた。そのため、北部や中部の諸州に比べて、平均世帯収入、また一人当たりの粗付加価値額の低い州が多く、世帯の現金支出に占める飲食費の割合も高い。そして、そもそも世帯所得が低いうえに、現金所得に占める勤労所得の割合が低く、親族による送金や公的補助金などの移転所得の割合が高くなっている。就学期の児童の労働参加率も高く、そのためか 15 歳以上人口の非識字率も高い。このような人材育成の欠乏状態がさらに投資の流入を妨げているとも考えられる。さらには、この地域における人口転換プロセスの進行の遅れは、地域の経済発展にとって最適な人口学的条件（人口ボーナス）の出現を遅らせており、一人当たりの可処分所得を低いままにしている。しかし、メキシコ南部地域は、他の中南米諸国への窓口の位置を占めており、近年は、特に中米各国とのインフラ協力が進められてきている。そして、2018 年 12 月に就任したロペス・オブラドール現大統領は、アメリカ合衆国との間で、「メキシコ南部及び中米を繁栄させることを目的とし、同地域における経済開発及び投資を増大させるため二国間協力を強化・拡大する」という基本方針に合意した。

なお、本稿では、メキシコ南部地域における先住民人口比率の高さが、この地域の低開発や貧困とどのように結び付いているかに関しては、詳しく見ることはできなかったが、今後はその点に関しても検討する必要があるだろう。

### 参考文献・資料

- Instituto Nacional de Estadística y Geografía (INEGI), ‘Encuesta Nacional de Ingresos y Gastos de los Hogares 2020’: <https://www.inegi.org.mx/programas/enigh/nc/2020/>
- INEGI, ‘Censo de Población y Vivienda 2020’: <https://www.inegi.org.mx/programas/ccpv/2020/>
- INEGI, ‘Sistema de Cuentas Nacionales de México’: [https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fwww.inegi.org.mx%2Fcontenidos%2Ftemas%2Feconomia%2Fpib%2Fpibent%2Ftabulados%2Fori%2FPIBE\\_2.xlsx&wdO](https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fwww.inegi.org.mx%2Fcontenidos%2Ftemas%2Feconomia%2Fpib%2Fpibent%2Ftabulados%2Fori%2FPIBE_2.xlsx&wdO)

[rigin=BROWSELINK](#)

- 国際協力銀行（2021）「メキシコの投資環境」：  
<https://www.jbic.go.jp/ja/information/investment/inv-mexico202110.html>
- 河野稠果（2007）『人口学への招待 — 少子・高齢化はどこまで解明されたか』、中央公論新社.
- 鍋島正次郎（2020）「中南米・カリブ海地域における人口転換のプロセスとその経済成長への効果」、『福山大学経済学論集』 vol.44, pp. 31-46.
- 鍋島正次郎（2022）「メキシコにおける貧困と社会的支援政策」、『福山大学経済学論集』 vol.46, pp.68-83.
- 大泉啓一郎（2007）『老いてゆくアジア — 繁栄の構図が変わるとき』、中央公論新社.
- 椎野幸平（2015）「人口ボーナス期で見る有望市場は」、『ジェトロセンサー』2015年3月号、pp.58-59.
- United Nations, ‘World Population Prospects 2020’:  
<https://population.un.org/wpp/Download/Standard/MostUsed/>
- 宇佐見耕一他（2009）『図説ラテンアメリカ経済』、日本評論社.
- 在メキシコ日本大使館 HP 「メキシコ政治情勢」：  
[https://www.mx.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/00\\_000096.html](https://www.mx.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000096.html)

## Underdevelopment and Poverty in the Southern Region of Mexico

Shojiro Nabeshima

The southern region of Mexico is far from the capital (Mexico City) and the northern border region. The southern region has been underdeveloped due to the lack of direct investment from both inside and outside the country. Compared to northern and central states, many states in this region have lower average household income and gross value added levels per capita. Furthermore, the proportion of food and beverage expenses in household cash expenditures is high. In addition to low household income levels, the ratio of working income to cash income is low, and the ratio of transfer income (e.g., remittances by relatives and public subsidies) is high. The labor participation rate of school-aged children is high, and perhaps because of this, the illiteracy rate of the population aged 15 years and over is also high. The lack of human resource development is thought to further hinder the inflow of investments. Additionally, slow progress in the demographic transition in the region has delayed the emergence of optimal demographic conditions (demographic dividend) for economic development in the region, leaving per capita disposable income low. However, the southern region of Mexico serves as a window to other Latin American countries, and in recent years, infrastructure cooperation with Central American countries in particular has been promoted. In December 2018, President López Obrador, upon taking office, signed a bilateral agreement strengthening and expanding cooperation with the United States to increase economic development and investment in the region, with the aim of making southern Mexico and Central America prosperous.